

平成25年度事業報告

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として機関に措置される。

平成25年度科学研究費の継続課題は、科学研究費補助金として3件、7,700千円あり、学術研究助成基金助成金として3件ある。また、新規に採択された学術研究助成基金助成金の課題が5件である。なお学術研究助成基金助成金は研究期間全体の合計額で採択されるため単年度の予算は明記しない。

(1) 継続研究課題

<補助事業>

基盤研究(A) 海外

「日韓における保存処理後木製品の経年変化と保管管理の比較研究」

平成21～25年度 伊藤健司 4,200千円(25年度執行額)

基盤研究(B) 一般

「日本中世の葬送墓制に関する発展的研究」

平成21～25年度 狭川真一 1,500千円(25年度執行額)

「出土木製品のマイクロ波加熱凍結乾燥法による保存処理の研究」

平成23～26年度 川本耕三 2,000千円(25年度執行額)

<基金助成金>

基盤研究(C) 一般

「MRIを用いた水浸出土木材の内部性状の可視化に関する基礎的研究」

平成24～26年度 山田哲也 4,100千円(研究期間合計額)

「東アジアにおける小札甲の受容と展開ー日本古代の甲冑を中心としてー」

平成24～26年度 塚本敏夫 4,100千円(研究期間合計額)

挑戦的萌芽研究

「高分子有機化合物で構成された文化財の劣化機構の解明」

平成24～25年度 植田直見 3,000千円(研究期間合計額)

(2) 新規研究課題

<基金助成金>

基盤研究(C)一般

「日本国内所在・台湾原住民族資料とその来歴の基礎的研究」

平成25～27年度 角南聡一郎 3,800千円(研究期間合計額)

「アーカイブにおける短命資料の保存に関する研究」

平成25～27年度 近藤正子 3,400千円(研究期間合計額)

「古代アジアにおける組紐製作技法の発生と伝播に関する基礎的研究」

平成25～27年度 小村真理 3,800千円(研究期間合計額)

「出土櫛から見た古代東アジアにおける葬制の比較研究」

平成25～27年度 木沢直子 3,900千円(研究期間合計額)

若手研究(B)

「平安期緑釉陶器の色彩学的研究」

平成25～27年度 田中由理 1,500千円(研究期間合計額)

2. 文化財の調査・整理事業

人文科学研究室

(公財)大和文化財保存会補助事業 奈良県内寺社所有の版木調査

奈良県桜井市 長谷寺 長谷寺文化財調査整理事業

奈良県橿原市 豊田家資料整理事業

大阪府泉南市 文化財総合調査

大阪府河内長野市 延命寺 什宝(彫刻)調査・整理

大阪府高槻市しろあと歴史資料館 古文書史料目録作成

香川県 札所寺院の史跡指定に係る弥谷寺文化財詳細調査

香川県 札所寺院の史跡指定に係る志度寺文化財詳細調査

愛媛県 四国へんろ世界文化遺産推進事業における札所(龍光寺)の詳細調査(その1)

愛媛県 四国へんろ世界文化遺産推進事業における札所(三角寺奥之院)の詳細調査(その1)

(公財)大和文化財保存会助成金による奈良県内寺社所有の版木の調査は、信貴山千手院を対象としておこない「信貴山の版木・千手院」を刊行した。

以下は各種団体等からの調査依頼による受託事業である。

長谷寺文化財調査は、絵画・古記録古文書・聖教類・法衣繊維製品・石造物などについて実施した。

奈良県橿原市豊田家所蔵の民具・古美術など各種文化財の調査を実施した。

泉南市文化財総合調査は市内2ヶ寺にて仏像・仏画・古記録古文書・聖教類・石造物について実施した。

河内長野市延命寺什宝（彫刻）調査・整理は仏像等の調査と整理を実施した。
大阪府高槻市しろあと歴史資料館受託業務は古文書史料目録作成を行なった。
四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物・石造物・絵画・工芸・彫刻・書跡等を対象とするものである。香川県では弥谷寺が2年度目の調査を実施して完了し、志度寺の調査は本年度分を実施し、愛媛県では龍光寺と三角寺奥之院の初年度分調査を実施した。

考古学研究室

香川県善通寺市	旧練兵場遺跡発掘調査・基本整理支援事業
橋本不動産（株）	<small>はづかしひしかわじょう</small> 羽束師菱川城跡・長岡京跡発掘調査整理報告書業務
香川県丸亀市	城下町遺跡大手町3・4次調査出土遺物整理事業
福岡県久留米市	久留米市有馬家墓所石塔調査業務
静岡県袋井市	平治二年銘「梵鐘」の調査

善通寺市旧練兵場遺跡発掘調査は、昨年度夏から開始し、今年度も現地調査を継続し、調査報告書作成に向けての遺物整理を開始した。

京都市伏見区羽束師菱川城跡の発掘調査、遺物整理、報告書作成は、平成27年度までの継続事業となる。

平成18年度に当研究所が発掘調査を行った丸亀市城下町遺跡大手町3・4次調査について、未刊行の報告書の作成に向けての出土遺物整理業務を平成25年度に受託して実施した。

有馬家墓所石塔調査業務では過去3か年度わたり石塔の実測調査を行ってきたが、平成25年度は石灯笼や殉死墓の実測、銘文判読を行った。これで本事業はすべての調査を終了した。

袋井市岡崎地内で偶然に発見された平治二年の銘を有する梵鐘の調査を行い、各部分や銘文を詳細に検討した結果、12世紀末頃に再鑄造された可能性を示した。その成果は袋井市教育委員会から調査報告書として刊行された。

記録資料調査修復室

千葉県佐倉市 国立歴史民俗博物館 所蔵資料の状態調査

平成18年度より開始した国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査を引き続き行なっている。平成25年度は民俗資料（飛騨路の民具・大塚コレクション墨壺）の状態調査を進めた。

保存科学研究室

兵庫県神戸市 人と防災未来センター 資料保管環境の調査

島根県出雲市 出雲大社 重文出雲大社けいだい境内遺跡出土品保存修理に伴う計測
大阪府太子町 近つ飛鳥博物館 大修理の保存状態調査

その他、博物館等の環境調査、資料の劣化状態調査等を行った。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内所在石造文化財の調査（3）

奈良市内における石造物の悉皆調査は1989年に報告書が刊行され、重要な石塔資料が多数報告された。これら石造文化財の詳細な調査は文化財保護や歴史研究に重要な素材を提供するが、個別具体的な調査は未だ行われていない。

平成25年度も昨年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔について詳細な調査を行ない、奈良国立博物館前庭に置かれる宮島家所蔵宝篋印塔の実測・拓本・写真撮影を行った。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究室

愛知県美術館	所蔵油絵・仏像・厨子等の調査
鹿児島県鹿屋市	立小野堀遺跡出土金属製品の分析
静岡県浜松市	松東遺跡出土金属製品の分析
福島県会津若松市	会津大塚山古墳出土金属製品の分析

その他、金属製品、木製品、繊維、漆、顔料、琥珀等の素材分析等を行った。

4. 文化財の保存修復事業

伝世資料修復室

大分県佐伯市	重要有形民俗文化財蒲江の漁撈用具保存処理
京都府京田辺市 一休寺	鉄製釣灯籠、香炉の修復
山口県萩市 萩博物館	雛人形の修復
陸前高田市	登録有形民俗文化財陸前高田の漁撈用具保存修復
兵庫県高砂市曾根天満宮	曾我蕭白絵馬のレプリカ作製

平成13年度から継続して実施していた大分県佐伯市の所蔵する重要有形民俗文化財『蒲江の漁撈用具』保存処理事業は、平成23年度の東日本大震災のため1年中断したが、昨年度再開され平成25年度で一応の保存処理が終了した。今後は大型の漁船の現地での修復計画を立ててゆく予定である。

一休禅師で有名な京田辺市一休寺より鉄製の釣灯籠、香炉をお預かりし、錆による劣化を抑制、防止するための保存処理修復作業を行っている。両資料とも室町時代より伝来するものである。

萩博物館所蔵の高杉晋作の生家高杉家に伝来する男雛の形状復元作業を行った。

岩手県陸前高田市所蔵の「登録有形文化財陸前高田の漁撈用具」は、東日本大震災が引き起こした津波により、水損（塩害）破損が確認されたため保存処理が必要となり委託されたものである。

高砂市に鎮座する曾根天満宮に伝来する曾我蕭白作板絵著色牽牛図の複製製作を受託し行っている。平成26年10月に完成予定である。

記録資料調査修復室

愛知県名古屋市	名古屋大学	古文書の修復
大阪府吹田市	大阪大学	適塾資料の修復
静岡県島田市	島田市立博物館	古文書の修復
高知県安芸市	安芸市歴史民俗資料館	絵図面の修復
東京都中央区	清水建設株式会社	所蔵資料の修復
和歌山県高野町	高野町教育委員会	納入経断簡の修復
大阪府河内長野市	河内長野市教育委員会	引き札の修復

文書・絵図類の修復事業は漉嵌法^{すきばめほう}を中心に進めており、名古屋大学、大阪大学、島田市立博物館、安芸市歴史民俗資料館などの修復を実施した。

継続的に修復を進めている清水建設株式会社所蔵資料は、装束類の修復および保存棚の設計作製を行った。

高野町の奥院燈籠堂経筒納入経巻断片は固着破片の剥離および巻紙装丁を行った。

河内長野市は貼りパネル等に貼付された引札の剥離および裏打ちを行った。

木器保存研究室

島根県出雲市	出雲大社	重要文化財島根県出雲大社境内遺跡 ^{けいだい} 出土品の保存処理
岩手県平泉町		重要文化財平泉遺跡群出土美術工芸品の保存修理
福岡県小郡市	九州歴史資料館	行田市所在延永ヤヨミ園遺跡 ^{のぶなが} 出土木製品の保存処理
大阪府枚方市		禁野本町遺跡 ^{きんやほんまち} 出土遺物の保存処理
愛知県清須市		清州城下町遺跡 ^{こけらきょう} 出土柿経の保存処理
奈良県三郷町		辻ノ垣内瓦窯 ^{かいと} の保存修理

重要文化財の修理に関しては、平成23年度から5か年事業で出雲大社所蔵の重要文化財出雲境内遺跡^{けいだい}出土の心御柱3本（鎌倉時代）他の保存処理を行なっており、平成25年度はPEG40%までの含浸を行なった。また、岩手県平泉町所蔵の重要文化財平泉遺跡群（平安時代）出土の鏡箱などの保管用台座を作製した。

福岡県行橋市の延永ヤヨミ園遺跡^{のぶなが}（弥生時代～奈良時代）、大阪府枚方市禁野本町遺跡^{きんやほんまち}から出土した木製品、愛知県清須市の清州城下町遺跡^{こけらきょう}柿経束（室町時代）から外れた柿経^{こけらきょう}などの保存処理を行なった。

その他に、奈良県三郷町勢野北に移築して保存展示されている三郷町指定文化財史跡辻ノ垣内瓦窯^{かいと}（飛鳥・白鳳時代）2基の修復作業を現地にて行なった。

金属器保存研究室

島根県出雲市	島根県立古代出雲歴史博物館	国宝神庭荒神谷遺跡出土青銅製品の保存修理
島根県出雲市	出雲大社	重要文化財出雲大社境内遺跡出土品の保存修理
滋賀県東近江市		重要文化財雪野山古墳出土金属製品の保存修理
兵庫県姫路市		重要文化財宮山古墳出土金属製品の保存修理

広島県福山市 広島県立歴史博物館 重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品保存修理
 大阪府豊中市 大阪大学 野中古墳出土短甲の保存処理
 神奈川県鎌倉市 (公財)かながわ考古財団 下場周辺遺跡出土の大鎧の保存修理
 鹿児島県 (公財)鹿児島県埋蔵文化財センター 立小野堀遺跡出土鉄器の保存処理

国宝の保存修理は、平成22年度からの継続事業として、平成25年度も島根県神庭荒神谷遺跡(弥生時代)出土銅剣の修理を行った。

重要文化財では、平成23年度から3か年で滋賀県近江市・雪野山古墳(古墳時代前期)出土金属製品の保存修理、7か年で島根県・出雲大社境内遺跡出土品(鉄斧、釘他)の保存修理を行っており、平成25年度も引き継いで作業した。また、兵庫県姫路市・宮山古墳(古墳時代中期)出土金属製品、広島県福山市・草戸千軒町遺跡(中世)出土品の保存修理も行った。

その他、主要な事業として、平成24年度からの継続事業で大阪大学所蔵・野中古墳(古墳時代中期)出土襟付短甲の保存処理を行い、あわせて支持台を作製した。また、同じく平成24年度からの継続事業として、神奈川県鎌倉市・下場周辺遺跡(鎌倉時代)出土の大鎧の保存処理を行い支持台を作製した。さらに、鹿児島県・立小野堀遺跡(古墳時代)出土鉄刀等について、保存処理と実測図の作製を行った。

土器修復室

文化庁(九州歴史資料館保管) 重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土品保存修理
 兵庫県姫路市 重要文化財宮山古墳出土玉類の保存修理
 奈良国立博物館 奈良市西大寺出土陶棺の保存修理
 (公財)滋賀県文化財保護協会 上御殿遺跡出土短剣鋳型保存修理

国の指定文化財の修理としては、平成23年度から5か年計画で、重要文化財福岡県・栗田遺跡祭祀遺構出土品の保存修理を行っており、平成25年度は甕棺3点(上甕3点・下甕2点)の修理を実施した。また、兵庫県姫路市・重要文化財宮山古墳出土玉類の保存修理を行った。

その他主要な事業として、平成24年度から2か年計画で行ってきた奈良国立博物館所蔵の奈良市西大寺出土陶棺の修理が平成25年度で完了した。また、滋賀県・上御殿遺跡出土短剣鋳型の保存修理を行った。

また土器修復室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成25年度は昨年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施した。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

企画展の開催

『元興寺 創建』

※(宗)元興寺と共催

元興寺が平城京に移されたのが718年。まもなく1300年になるが、当時の面影を残す資料は数少ない。しかし、近年の発掘調査で出土した資料や伝世している資料を新しい方法で再分析を加えると、少しずつだが創建当時の様子を垣間見ることができる。

実際の建設にはどのくらいの時間を要したのか、建設以前この付近には何があったのか、などいくつかの課題を現在に伝わる資料と発掘資料を織り交ぜながら解説した。

開催期間 平成25年4月27日(土)～6月2日(日)

開催場所 元興寺総合収蔵庫 入館者数 16,512名

秋季特別展の開催

『散華の美』

※(宗)元興寺と共催

寺院で法会を行う際に諸仏を供養するために花が撒かれるがこれを散華と呼んでいる。もともとは字のごとく本物の蓮の葉や生花が撒かれるものであるが、いつ頃からか蓮の葉などを形どった色紙が撒かれるようにもなった。近年、この色紙を使用した散華のデザインを有名画家等に依頼して、信者や参拝客に対する記念品として頒布している寺院も多く見られる。こうしたジャンルの散華を美術散華と呼んでいるが、現代美術としても評価されていく可能性を高くもった作品群である。

今回の企画展では、歴史資料としての散華をはじめ、現在法会の際に用いられている散華、近年流行の兆しをみせている鮮やかな色彩やデザインをもった美術散華までを一堂に会して紹介した。

開催期間 平成25年10月26日(土)～11月10日(日)

開催場所 元興寺総合収蔵庫 入館者数 7,487名

担当：人文科学研究室

文化講座の開催

平成25年	4月24日(水)	東大寺復興と重源上人の大事業
	5月29日(水)	渡唐の僧 普照・栄叡と唐招提寺鑑真大和上
	6月26日(水)	西大寺の復興と叡尊和上の活躍
	9月25日(水)	古代の舟 — 川遡る舟と海往く船
	10月23日(水)	古代の道 — 大和の道・難波の道
	11月27日(水)	古代の舶来動物 — 牛馬から駱駝まで
	12月25日(水)	古代の鳥 — 白鳥から朱雀まで
平成26年	2月7日(金)	世界文化遺産 — 富士山
	3月26日(水)	古墳誕生の地 — 三輪山

水野正好所長による文化講座を(宗)元興寺と共催で毎月1回程度開催している。各回ともに、20名～30名の聴衆があり、盛況を博している。

展覧会の開催支援

平成25年度『発掘された日本列島2013』展（文化庁受託事業）

文化庁(記念物課)と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展に関する、展示品の貸借、展示プランの作成、展示パネル、キャプション等作成、ポスター、チラシ、チケット等の印刷・配布、展示品の点検・集荷、展示会場設営、展示品の返却のほか、開催予定館との連絡調整等の多岐にわたる開催支援業務を平成20年から実施している。

なお本展は、従来は中核展示・テーマ展示の二部構成であったが、平成25年度は宮内庁所蔵の「陵墓出土の埴輪」が特別展示され、三部構成となった。中核展示には北海道から鹿児島県までの旧石器から近世までの15遺跡の資料が、テーマ展示には「東日本大震災の復興と埋蔵文化財保護」に関係する7遺跡の資料が、特別展示は8陵墓から教科書にも掲載されている「女子頭部」など13点の埴輪が展示された。

昨年度は入館者数が10万人を割ったが、宮内庁所蔵の埴輪等の展示の反響もあり、今年度はのべ206日間の開催で127,564人の入館者があった。

平成25年度開催館、開催期間及び入館者数

東京都江戸東京博物館	平成25年6月8日～7月25日	61,085人
福島県文化センター	平成25年8月3日～9月13日	6,516人
松本市立博物館	平成25年9月21日～11月4日	6,411人
高槻市今城塚古代歴史館	平成25年11月12日～12月24日	15,506人
九州国立博物館	平成26年1月1日～2月16日	38,046人

大阪大谷大学博物館秋季特別展の資料輸送及び展示作業

大阪大谷大学の秋季特別展『進化するスポーツ-あそびからスポーツ-』に展示する秩父宮スポーツ記念館所蔵の聖火トーチ、ユニホーム、第1回アテネオリンピックの参加メダル等の梱包・輸送・展示を行った。

6. 報告書、書籍等の刊行

公益財団法人畠山文化財団助成事業

『元興寺文化財研究所研究報告2013』（1,300冊）の刊行

平成23年度からは公益財団法人畠山文化財団からの助成金を受けて刊行している。

7. 体験活動調査・整理事業

研究、調査成果を還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習5校、中学生職場体験3校、施設見学8件を受け入れた。